

【出演者プロフィール】



Sachiyo (Vocal)

東京生まれ、シンガポール育ち。シンガポールを拠点に活動する唯一の日本人シンガーソングライター。幼少の頃には、シンガポール航空キャンペーンガール等、子供モデルとしても活躍。「Sachiyo Sings Singapore」、「Rojak」、2枚のアルバムを日本国内で発表。日本とシンガポールの文化交流事業に多数出演、公式イベントにおいて、両国国歌独唱経験もある。2011年、全編英語アルバム「My Life, My Songs」を、シンガポールを代表するプロデューサー、ミュージシャンと共に制作、発表。東日本大震災に際して、被災された方々に捧げる曲「A Song of Life」を作詞、作曲、プロデュースし、シンガポールの音楽業界の協力を得てCD化、CDとダウンロード販売から得た収益金を被災地に寄付。シンガポール国内における芸術文化を通じた日本復興支援活動で中心的な役割を果たす。2011年12月にはシンガポール初の被災地におけるコンサートを仙台市3カ所で開催。2012年3月には、シンガポールにおいて追悼一周年チャリティーライブを行い、シンガポールの報道局Channel News Asiaの震災追悼特別番組に出演、全アジアで放送される。国際的に活動するシンガーソングライターとして、日本とシンガポールの音楽親善大使として活躍中。



Adam Lee (Guitar/Bass)

音楽プロデューサー、編曲家、作曲家、ギタリスト。主楽器はギターであるが、ピアノ、ベース、ドラム他、多種類の楽器を演奏するマルチインストルメンタリスト。アジアを代表する様々なアーティストのプロデュース、アレンジを担当。主にアンディ・ラウ、タニア・チュア、ステファニー・スン、サンディ・ラム、アーメイ、F.I.R等の楽曲のプロデュース、アレンジを多数手掛け、ツアーメンバーとしても参加している。アジアのアーティストのみならず、スティーヴン・ビショップ、マリリン・マッカー、ローラ・フィジー、テンプテーションズ、コモドアーズ、グレッグ・ウォーカー等世界的に活躍するアーティストとも共演。全ジャンルに精通し、小編成からオーケストラまでアレンジは幅広くソニーエリクソン、ノキア、マクドナルド他、CM音楽も多数作曲。ノキア等、企業の音楽コンサルタントを務める事も多い。2010年8月、シンガポールで開催された第一回ユースオリンピック・オフィシャルテーマソング「Everyone」の編曲も手掛け、名実共にシンガポールを代表する音楽家の1人である。



Mei Sheum (Piano/Keyboard)

ピアニスト、キーボーディスト、編曲家。ラスベガス、ニューヨーク、シカゴ、ボストン、コネティカット、シドニー、メルボルン、香港、台北、北京、上海、南京、杭州、青島、武漢、温州、バンコク、大阪、ジャカルタ、マレーシアと、世界中の都市のスタジアム、コンサートホールで演奏経験があるシンガポールを代表する演奏家。デーヴィッド・タオ、ワン・リー・ホン、ジャッキー・チュン、アンディ・ラウ、ディック・リー、JJリン他アジアのスターのコンサートに鍵盤奏者として多数参加。全ジャンルに対応出来るミュージシャンであり、特にジャズピアニストとしての評価は高く、ケイコ・リー、ウイントン・マルサリス、アーニー・ワッツとも共演している。



Mohamed Noor (Drums/Percussions)

シンガポール最高峰。アジアで最も影響力のあるドラマー、パーカッションистと呼ばれている。伝説的なラテンパーカッション奏者の父の元で修行、5才でプロインドパーカッション奏者として、ヴィクトリア・シアターに出演。幼少よりアジアで開催された数々のフェスティバルに出演、音楽賞を多数受賞。世界中にある25以上のパーカッション楽器を使いこなし、ジブシー・キング、ランディー・クロフォード、デーヴィッド・ボウイ、ロビー・ウィリアムス、デニス・チャンバース、ジャッキー・チュン、デーヴィッド・タオ、ワン・リー・ホン他、世界的に活躍するアーティストのレコーディング、コンサートに参加する。2007/2008年にシンガポールにおいて開催された、国際ドラムフェスティバルにおいて、世界11人のパーカッションistを代表して、演奏を行う。2012年5月、シンガポールのパーカッションistとしては、初のリーダーアルバム「Rebirth」を発表し、Esplanade Recital Studioでデビューコンサートを開催。シンガポール発信の世界ミュージックの誕生と、シンガポール音楽業界で大きな注目を集めている。